

バスと電車とタクシーを“じょうずに”つかおう



ゆとりをもった あんぜんな移動



荒尾市のモビリティマネジメント

クルマは確かに便利で快適です。しかし、みんながクルマを使っている間にバスの利用者は減り続けており、荒尾市のバスへの補助金額も増えています。このままではバスの便数が減ったり、一部の路線が廃止になったり近い将来公共交通が利用しにくい状況に陥ってしまいます。

一方、今後ご高齢の方が増え、自動車運転免許の自主返納の意向も多い中、移動に困る方々は確実に増えていきます。

『荒尾市モビリティマネジメント』とは、みなさんが「クルマだけ」から「公共交通（バス・電車・タクシー）」も使えるようになり、今後も生き生きとした生活を送る事ができるように公共交通に慣れ親しんでいただく取組みです。公共交通やクルマの“じょうずな”使い方を一緒に考えてみませんか？



荒尾市の モビリティマネジメント

参考資料



事実背景



産交バスの利用者と市の補助金

バスの利用者は年々減少傾向にあり(年間23万人)、
荒尾市のバス事業への補助金額は年間5,700万円程度となっています。
市民一人当たりで換算すると1,100円程度となります。
一人一人が年に数回バスに乗ることで、公共交通を支えていく事ができます。



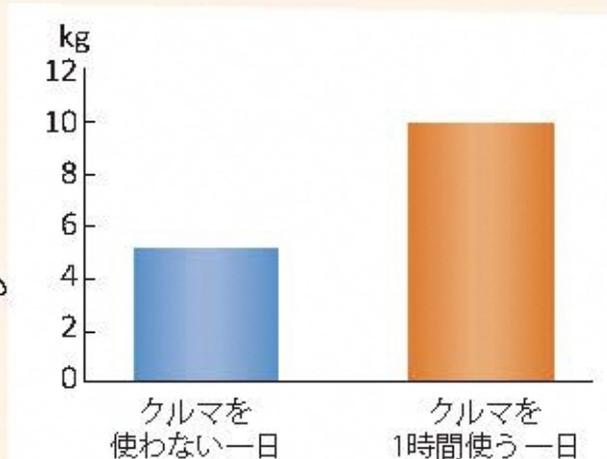
事実環境



クルマ利用と社会の「環境問題」

ちょっとクルマを使うだけで
あなたが排出するCO₂(地球温暖化の原因となるガス)は
何倍にもなってしまいます。

1時間、クルマを
使うと、一人の
CO₂の排出量は2倍以上
にもなってしまいます。



自家用車1台から
排出される二酸化炭素は
年間約 **2,300kg**

吸収



樹齢 80 年のスギ人口林
160本

スギ1本(樹齢80年)が1年間に
吸収する二酸化炭素量 = **14kg**



普段、皆さんが使っているクルマに参考資料 このようなデータも…



事実3 健康



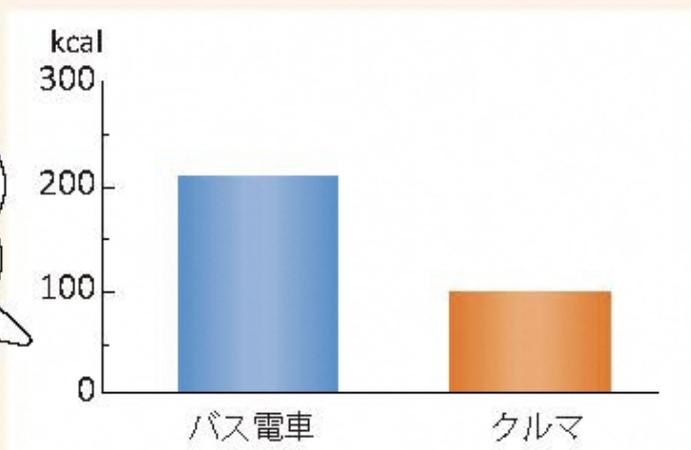
クルマ利用とあなたの「健康」



クルマはずーっと座っていることができます。
だから便利なのですが、
だからこそ、健康には良くありません。



1時間、クルマで移動する
代わりにバス・電車を
使えば、それだけで
消費カロリーは2倍以上
になります。



カロリー：
ご飯1膳普通盛り
(140g)
235 kcal



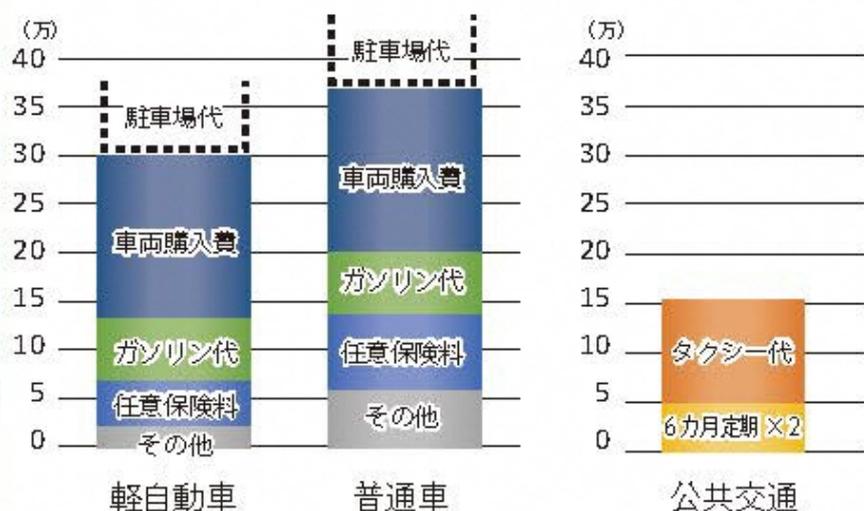
事実4 お金



クルマは（想像以上に）オカネがかかる。 公共交通では半額以下に！？

クルマと公共交通の1年間の費用を比較してみました。
公共交通ではタクシーを利用してクルマのおよそ1/2程度(年間15万)ですみます。

自動車利用は「年間
30万円以上の費用」
公共交通の場合、タ
クシーを利用して
年間15万程度に



※その他は、自動車税、自動車重量税、自賠責保険料、印紙代など

※6か月定期は、サンコーバス65(6ヶ月)を年に2回購入
※タクシー代2000円/往復を1週間に1回利用





公共交通の割引サービス



65歳以上 免許返納者割引乗車証 (産交バス)



お特な乗車証 免許返納者割引乗車証

■免許返納者割引乗車証とは

熊本県内在住の満65歳以上で運転免許証を自主返納した方に発行する乗車証です。この乗車証をご呈示いただくと対象路線の運賃が半額になります。

70歳以上 福祉特別乗車証 (荒尾市)



お特な乗車証 福祉特別乗車証

■福祉特別乗車証とは

荒尾市内に住民票がある満70歳以上の方が、産交バスを利用する場合、運賃が100円(市内に限る)に割引される制度です。

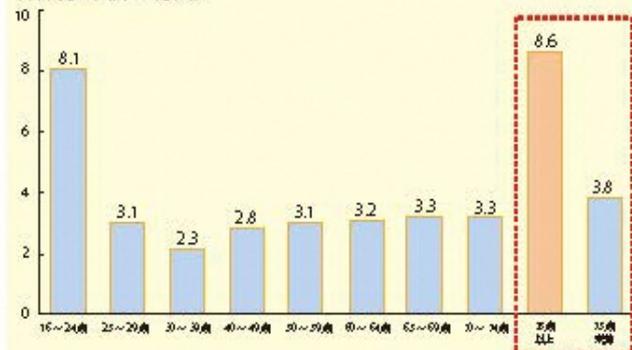
※福祉特別乗車証の交付のお問い合わせ
荒尾市役所 保健福祉部 福祉課 総務係
電話番号:0968-63-1406



高齢者の運転事故・免許返納

75歳以上の方の自動車運転事故リスクは、それ以外の年齢の方々の2倍以上に高まります。一方、産交バスや荒尾市には高齢者に対する公共交通の割引サービス(免許返納者割引乗車証・福祉特別乗車証)があり、クルマから公共交通へ転換することで、安全にお支払い運賃で公共交通を利用できます。

年齢別免許人口10万人当たりの死亡事故件数 (件/免許人口10万人)



※参考 警視庁資料

80歳男性のアクセル・ブレーキペダルの踏み間違いによる死傷事故(栃木県)



※参考 内閣府HP

お問い合わせ

荒尾市 総務部 総合政策課
〒864-8686 熊本県荒尾市宮内出目390番地
<電話> 0968-63-1273 <URL> <http://www.city.arao.lg.jp/>

